

保安語（ボウナン語）の[ʃi]と漢語の「是」の対照

東京外国語大学大学院博士前期課程
Arula（アルラ）

1

本発表の構成

1. はじめに
2. 先行研究
3. 資料
4. 保安語の [ʃi] と漢語の「是」の位置
5. 保安語の [ʃi] と漢語の「是」の機能
6. 東郷語における [ʃi]
7. 漢語の「是」による保安語と東郷語に見られる言語変化
8. まとめと今後の課題

1. はじめに

保安族は中国の55の少数民族の一つであり、甘粛省に居住している。

保安語はモンゴル諸語に属し、中国の民族識別による保安族と土族、合わせて約9000人により話されている。彼らは漢語とのバイリンガルであり、保安語は漢語との言語接触の状況にあると言える。このような状況下で、保安語は語彙や文法要素の借用を通じ漢語の影響を受け、変化をしていると考えられる。

保安語は話される地域によって、積石山方言¹と同仁方言²という2つの方言に分けられる。

1積石山方言は、中国甘粛省臨夏回族自治州積石山保安族東郷族撒拉族自治县に居住する保安族により話されている。積石山方言には、大墩方言、干河灘方言、斜套方言などの下位方言がある。

2同仁方言は、中国青海省黄南藏族自治州同仁県に居住する土族により話されている。同仁方言には、保安下庄方言、年都乎方言、郭麻日方言、尕洒日方言などの下位方言がある。

本発表では保安語の積石山方言における漢語借用語[ʃi]をめぐって、発表者が収集した保安語の自然談話資料³と、先行研究からまとめた談話資料⁴を基に、保安語の[ʃi]及び東郷語の[ʃi]を漢語の「是」との対照により、「是」の借用により保安語と東郷語に生じた言語変化について考察する。

結論として保安語と東郷語の[ʃi]は、漢語の「是」を全般的に借用したのではなく、漢語の「是」の借用により保安語と東郷語に言語変化が生じていると主張する。

本発表における例のうち出典の表示のないものは発表者の調査によるものである。

³大塚村（保安語の大塚方言が話されている村）出身の馬瑞氏（1949年生まれ）をインフォーマントに得た資料である。
⁴布和・刘照雄（1982）、佐藤（2000）、佐藤（2011）等の先行研究による資料である。

2. 先行研究

2.1 保安語における [ʃi] の先行研究

2.1.1 布和・刘照雄 (1982)

布和・刘照雄 (1982) は、[ʃi] について、「保安語の主語は漢語借用語‘是’を付けることにより、さらに明確される。そして若者たちには、この使用が多い」と述べている。

- (1) ənə ʃi guŋʃə-nə t̪ciŋʃə o. (布和・刘照雄 1982:65)
これ 是 公社 自動車 是 (グロスは布和・刘照雄 1982 による)

「これは公社の自動車です。」

2.1.2 陳乃雄 (1990)

陳乃雄 (1990) は、保安語の干河灘方言は漢語から「是」を借用し、「判断」の意味を表すと述べている。

また、「判断」の意味を表す以外に、「假定」または「～場合」という意味を表す場合もあると述べている。

(2) xabibu jitcan ʃl defu, da ʃo. (陳乃雄 1990:23)

人名 以前 是 医者 今 AUX.NEG (グロス は 発表者 による)

「xabibu は以前医者だったが、今はではない。」

(3) ʃo ʃl sɪgə, oloŋ ji-sɪ liwɔgə xuəɖzɛ bagə. (陳乃雄 1990:23)

少ない 是 4つ 多い AUX-CON6つ あるいは 8つ (グロス は 発表者 による)

「少なかったら4つ、多かったら6つあるいは8つ。」

2.1.3 佐藤 (2000)

佐藤 (2000) は、保安語の大塚方言では「是shi」が主題標識として借用され、用いられているが、干河灘方言では「是shi」が若年層で連結詞として用いられている、と述べている。

以下の(4)は大塚方言、(5)は干河灘方言の例である。

(4) habibu ʃi manbə wo. (佐藤 2000:65)

人名 是 医者 です (グロス は 佐藤 2000 による)

(5) habibu ʃi manbə. (佐藤 2000:65)

人名 是 医者 (グロス は 佐藤 2000 による)

「ハビブは医者です。」

2.2 漢語における「是」の先行研究

朱德熙(1978)は、漢語の「的」に関する5つの判断句における特徴及びそれらの間の転換関係について述べている。

赵淑华(1979)は、漢語の「是……的」文を意味機能から3つに分け、それぞれの構造の特徴について詳細に述べている。

吕叔湘(1999)は、位置から見られる漢語の「是」の意味機能について詳しく列挙している。

劉・潘・故(2019)は、外国語として漢語を教える観点から、漢語の「是」の位置、または「是」文の類型と意味について述べている。

張友和(2012)は、「是」文を統語形式と意味形式の対応状況によって3つに分け、それぞれの統語構造、意味機能について述べている。

先行研究について、以下のような問題点が指摘できる：

1. [ʃi]の機能は何か？連結詞か、判断の標識か、主題標識か？
2. [ʃi]は借用された標識であるが、保安語に本来存在する主題標識との違いはなにか？なぜ[ʃi]は借用されたのか？

3. 資料

保安語の資料：大塚村出身の馬瑞氏（1949年生まれ）をインフォーマントに得たもの⁵
布和・刘照雄（1982）、佐藤（2011）等の先行研究による資料

漢語の資料：赵淑华（1979）、吕叔湘（1999）、張友和（2012）、劉月华（2019）等の先行研究
による資料

東郷語の資料：布和（1986）、布和（1987）による資料

⁵発表者は、保安語のテキスト集である佐藤（2011）に現れる[ɕi]の用例をまとめ、それに基づき、文翻訳、段落翻訳、自然談話採録などを通じ、保安語の[ɕi]の機能及び意味についてインフォーマント調査を行った。

4. 保安語の[ʃi]と漢語の「是」の位置

漢語における「是」の位置を基に、保安語の[ʃi]の位置について考察する。

漢語の「是」の前の要素：「{名詞/動詞/“的”} + 句」

漢語の「是」の後ろの要素：名詞/動詞/形容詞/“的”句/文

漢語の“的”句⁶は名詞化された要素と見られるが、保安語に表現される状況によって「VP的」と「AP的」に分けた。

6朱徳熙(1961)は、漢語の「V的」/「N的」/「A的」場合の機能は名詞の機能と相当し、名詞化標識である。文において、主語/目的語/連体修飾語/述語になれるが、連用修飾語/補語にはなれない、と述べている。

4.1 (表1) : 「是」が漢語にも保安語にも現れる場合

漢語	保安語
NP ₁ 「是」NP ₂	NP ₁ [ʃi]NP ₂
(6)我的名字是呼塞尼。	manə narə ʃi xusani i.
NP「是」AP的	NP[ʃi]AP+ni/no
(7)那辆车是新的。	nə t̃cə ʃi ɕinə no.
NP「是」VP的	NP[ʃi]PTCT+ni/no
(8)那些书是买的。	təlagə ʃu ʃi abt̃ci ərsaŋ ni.
VP的「是」NP	PTCT[ʃi]NP
(9)穿红色衣服的是我的妈妈。	fulaŋ məsd̃zigu ʃi mənə amo o.
VP的「是」AP的	PTCT[ʃi]AP+ni/no
(10)他买的都是好的。	nd̃zɔŋ absaŋ ʃi saŋ no.

4.2 (表2) : 「是」が漢語に現れるが保安語に現れない場合

漢語	保安語
VP的 ₁ 「是」VP的 ₂	*PTCT[ʃi]PTCT
(11)那个骑自行车的是送信的。	nəgə zicɛɪŋtɕə χ ɔndzigu ʃi ɛin kurgədzigu kuŋ o.
AP的「是」NP	*A[ʃi]N
(12)这个酸的是那个树的苹果。	nə xofo:n igu ʃi tə ʃy dəgu piŋguo o.
AP的「是」VP的	*A[ʃi]PTCT
(13)我们俩去买衣服了, 黑色的是我买的, 白色的是他买的。	bədəgualə məsgu ablə d̄zi o, χ əra məsgu ʃi bu absaŋ ni, tɕə χ aŋ məsgu ʃi ndzɔŋ absaŋ no.
NP「是」Adj	*NP[ʃi]Adj
(14)老王是慢性子。	lɔvaŋ ʃi damo kuŋ o.
Adj「是」Adj	*Adj[ʃi]Adj
(15)他瘦是瘦, 可从来不生病。	ndzɔŋ məs χ ia isə məs χ ia ma, etəgu degi kuʃdziginə.
「是」+文	*[ʃi]+文
(16)是风把门吹开了。	ki ndɔnə xildzi neigətɕ.
「是」V	*[ʃi]VP
(17)我来中国是学习汉语, 不是旅游。	bu d̄zɔŋguodə ərsə χ əti gatɕi sələ ərd̄zi o, toglə ərd̄zi ginə.
V「是」	*VP[ʃi]
(18)他们最后一次遇见是在北京。	ndzasi xansa χ uinə nəgə ndzatəsə bəidziŋdə o.

表1からの保安語の[ʃi]と漢語の「是」の位置の対照：

保安語：

- ・保安語の[ʃi]の前に現れる要素：名詞と形容詞の働きをする形動詞に限られる。

保安語の[ʃi]の後ろに現れる要素は、名詞+i/oと形容詞/形動詞+ni/noになる。

佐藤(2011)の分析⁷によると、「形容詞/形動詞+ni/no」は名詞述語として機能していると考えられる。したがって、

- ・保安語の[ʃi]の後ろに現れる要素：名詞句に限られる。

漢語：

- ・漢語の「是」は保安語より広い範囲で使用され、名詞/形容詞/動詞の前後にすべて現れることができる。

⁷佐藤(2011)では、「-sanj-no」は「形動詞完了-名詞化・繫辞・客観」と分析されている。

5. 漢語の「是」と保安語の[ʃi]の意味機能

5.1 漢語における「是」の意味機能

2.2の先行研究では漢語の「是」の意味機能は焦点、判断（同等⁸/類別⁹と解釈/説明等の意味関係）、モダリティ（強調、態度の断固等；漢語：语气）等に分類される。

本発表ではこれらのうち焦点と判断を中心に考察する。

8同等：2つの名詞句（形容詞句）の指示する対象が同一であること。

9類別：ある名詞句（形容詞句）が別の名詞句（形容詞句）の所属、性質、状態、時間、場所、来源、用途等を説明すること。

5.1.1 焦点

文構造：「是＋連用修飾語＋動詞＋的」、「是＋主語述語構造＋的」、「是＋文＋的」、「是＋動詞＋的＋目的語」、「是＋動詞＋目的語＋（重複し他動詞）＋的」

(20) 小王 是 第一个 跳 下 去 的。(張友和 2012:92)

王先生 是 一番 跳ぶ 下る 行く PST

「王先生は一番に跳び下った。」

5.1.2 判断（同等/類別と解釈/説明等の意味関係）

文構造：「名詞句＋是＋名詞句」、「動詞＋是＋名詞句/動詞句」

(22) 这 本 书 是 弟弟的。(赵淑华 1979:57)

この冊 本 是 弟の

「この本は弟のです。」

5.2 保安語における[ʃi]の意味機能

発表者のインフォーマント調査及び先行研究からの資料によると、保安語の[ʃi]は必ずしも義務的に用いられるわけではない。

本節では、[ʃi]の現れる条件の検討を通し、[ʃi]の機能を論じる。

5.2.1 保安語の[ʃi]とコピュラ

呂叔湘(2014)は、漢語の基本判断文の主語と述語がすべて名詞あるいは代名詞になる。判断文を構成するには、主語と述語の間に必ず繫辞（コピュラ）「是」を用いる、と述べている。

ここでは保安語における[ʃi]はコピュラであるかどうかを検討する。

コピュラについて亀井・千野・河野（1996）は：

コピュラとは、動詞の一種。ある名詞句が表示する対象あるいは概念が、別の名詞句あるいは形容詞（類）によって表示される対象あるいは概念と同一である、あるいはそれに包含されることを表示する文において、「名詞句＋述語句」という構造の、述語句の部分において使用される動詞のこと。

と述べている。

亀井・千野・河野（1996）のコピュラに対する記述に従うと、保安語のi/o、mbi/mbaはコピュラであると考えられる。

- (23) bu baonaŋ kuŋ i/mbi. (布和・刘照雄 1982:54)
1SG 保安 人 是/是 (グロスは布和・刘照雄 1982 による)

「私は保安人です。」

- (24) maŋgə ʃi bɔnandzu o.
1PL.INCL TOP 保安族 COP

「私たちは保安族です。」

保安語に固有のコピュラが(24)のように[ʃi]がある場合でも現れており、[ʃi]とコピュラは排他的ではない。また、保安語のi/o、mbi/mbaは名詞述語文において義務的に用いられる。しかし、[ʃi]は文にとって必須要素ではなく、[ʃi]の有無によって文の成否が変わるわけではない。

仮に、漢語借用語[ʃi]をコピュラであると考えると、保安語のi/o、mbi/mbaとともに2つの要素がコピュラであるということになる点で問題がある。

5.2.2 保安語の [ʃi] と情報構造

疑問詞に相当する要素が焦点であると考えられるため、以下の疑問文とそれに対する応答文の例を検討し、保安語における [ʃi] の意味機能を考察する。

- (25)a. ndzasi xalə-sə ər-saŋ no?
 3PL どこ-ABL 来る-PTCT.PRF COP.NMLZ
 「彼らはどこからきたか。」
- b. ndzasi ʃi bəidziŋ-sə ər-saŋ no.
 3PL TOP 北京-ABL 来る-PTCT.PRF COP.NMLZ
 「彼らは北京からきた。」
- c. ndzasi bəidziŋ-sə ər-saŋ no.
 3PL 北京-ABL 来る-PTCT.PRF COP.NMLZ
 「彼らは北京からきた。」

- (26)a. nə gatɕi-nə kaŋ kaldzi o?
 この 話-ACC 誰 話す-PTCT.PRF IND.PST
 「この話を誰が話したか。」
- b. nə gatɕi ʃi tɕi godzi kal-saŋ ni.
 この 話 TOP 2SG 自分 話す-PTCT.PRF COP.NMLZ
 「この話は君が自分が話した。」
- c. nə gatɕi-nə tɕi godzi kal-saŋ ni.
 この 話-ACC 2SG 自分 話す-PTCT.PRF COP.NMLZ
 「この話を君が自分が話した。」

(25 b)(26 b)において、[ʃi]の直後の要素が各(25 a)(26 a)の疑問詞に対応する。これにより、[ʃi]の直後の要素が焦点化¹⁰されていると考えられる。それぞれ(25b)では連用修飾語、(26b)では主語が焦点されている。

10焦点とは、情報構造上の新情報または対照的信息に対応する文要素を指す。疑問文の応答に対応する句が新情報を表す(斎藤・田口・西村2017)。

(25)(26)の疑問文に対する応答はb/c¹¹の2つの文が可能である。

保安語の主語（名詞、形動詞）は、(25)cのように主格（ゼロ格）形でありる。

目的語は一般的に(26)cのように対格接尾辞（-nə）を付けるが、ゼロ格形で現れる場合もある。

しかし(25)(26)のb文を見ると、保安語の[ʃi]は(25)b文で主語になる「ndzasi」に付き、(26)b文の目的語「nə gat̃ci」に付いている。

また、応答文bにおける[ʃi]の直前の要素は疑問文にすでに現れているため、旧情報であると考えられる。

以上のとおり、保安語の[ʃi]の現れる条件を検討した結果、[ʃi]は主題¹²であると考えられる。

11b文とc文の違いについて：インフォーマントによれば、[ʃi]の使用によって焦点される要素が相手にさらに強く伝えられる。

12主題は、解説（comment）が加えられる対象であり、ある文がある事物についての聞き手の知識を増やすような情報を表していると解釈できる場合、その事物やそれを指し示す言語表現はその文の主題（題目、話題とも）と呼ばれる（齋藤・田口・西村2017）。古い情報は、題目として文頭に出されることがよくある（田中2007）。

6. 東郷語における [ʃi]

布和(1986)は、「東郷語の名詞、代名詞または名詞化されたほかの品詞が助動詞「wo」と結合し、名詞句述語になる。名詞句述語文は常に漢語由来の [ʃi] を使用し、主語の提示、主語と述語の統語関係を表す」と述べている。

- (28) bidziən ʃi duŋciaŋ kuŋ wo. (布和 1986:223)
1PL. EXCL 是 東郷 人 COP
「私たちは東郷族です。」

また、布和(1986)は形容詞述語文の主語には一般的に [ʃi] が付かないと述べている。

- (30) əndə-du tciəntci qaluŋ wo.
ここ-DAT 天気 熱い COP
「この天気が熱い。」

布和(1986)は、東郷語の形動詞は判断助動詞(wo)と結合し動詞述語になる、と述べている。布和(1986/1987)に現れる例文から、形動詞述語の前に[ʃi]が現れる場合が見られる。

(31) ənə niə dziən ʃi tʃəudzi-gala giə-san wo. (布和 1986:223)

この 1つ 服 是 シルク-INS 作る- PTCT.PRF COP

「この服はシルクで作ったものです。」

(32) ənə daŋ ʃi tʃi ʃuaji-san wo. (布和 1986: 161)

この 壁 是 2SG 刷る- PTCT.PRF COP

「この壁は君が刷ったのです。」

布和(1986/1987)に現れる東郷語の「 ζi 」により：

- ・ 東郷語の $[\zeta i]$ が現れる位置：名詞/形動詞のみの前後
- ・ 東郷語の $[\zeta i]$ の機能：

東郷語の $[\zeta i]$ が形動詞述語の前に現れる構造「主語 + ζi + ~ + 形動詞 + wo」を $[\zeta i]$ が用いられてない(33)(34)文と対照することから、 $[\zeta i]$ の直後の要素が保安語と同じ構造によって焦点化されている考えられる。

(33) bi tuxua-gala kiəliə-jə. (布和 1986:97)』
1SG 土語-INS 話す- IMP
「私は東郷語で話す。」

(34) bi godzia ɕin pidzi-dzi wo. (布和 1986:138)』
1SG 自分 手紙 書く-COP IND.PST
「私は自分で手紙を書いている。」

保安語、東郷語の[ɕi]と漢語の「是」の対照のまとめ

	漢語	東郷語	保安語
位置	名詞/形容詞/動詞の前後	名詞/形動詞の前後	名詞句の前 名詞/形動詞の後ろ
機能	判断/焦点/モダリティ等	主題標識	主題標識

保安語、東郷語の[ɕi]が現れる文をその漢語訳との対照：

- ・ 保安語と東郷語の[ɕi]が現れる文の漢語訳にも「是」が現れる
- ・ 逆に漢語訳に「是」があるとしても保安語と東郷語に必ず[ɕi]が現れるわけではない

保安語、東郷語の[ɕi]と漢語の「是」の位置の対照：

- ・ 漢語：名詞/形容詞/動詞の前後にすべて現れる
- ・ 東郷語：名詞と形動詞の前後に限る
- ・ 保安語：名詞句の前、名詞/形動詞の後ろに限る

保安語の[ɕi]は、主題標識として機能していると考えられる。

7. 漢語の「是」による保安語と東郷語に見られる言語変化

陳乃雄(1986)は、直接目的語を主語の前に移動することで、主語を強調¹³することができる」と述べている。

しかし、保安語にも、東郷語にも以下 (35c/d) のように[ʃi]を用い、焦点を表すことが見られる。

(35)c. nə gat̪ei ʃi t̪ei god̪zi kal-saŋ ni. (保安語)

この 話 TOP 2SG 自分 話す- PTCT.PRF COP.NMLZ

d. ənə kiəliən ʃi t̪ʃi god̪zia kiəliə-san wo. (東郷語 布和 1986:138)

この 話 是 2SG 自分 話す- PTCT.PRF COP

「この話は君が自分が話したのです。」

13一般的に、イントネーション (原文: 语调) が変わらないうち、述語に近い部分が強調される (陳乃雄1986)。

(35)a. t̂ci gɔd̂zi nə gat̂ci-nə kal-saŋ ni. (保安語の基本語順)
 2SG 自分 この 話-ACC 話す- PTCT.PRF COP.NMLZ

「君が自分がこの話を話したのです。」

b. nə gat̂ci-nə t̂ci gɔd̂zi kal-saŋ ni. (保安語の語順による焦点化)
 この 話-ACC 2SG 自分 話す- PTCT.PRF COP.NMLZ

「この話を君が自分が話した。」

(35)e. ən ug-gi t̂ʃi o:r-o:n xəl-sən ju. (モンゴル語・バーリン方言)
 この 話-ACC 2SG 自分-REFL 話す- PTCT.PRF INTJ

「この話を君が自分が話した。」

(35a) : 保安語の基本語順 (SOV)

(35b) : 目的語が主語の前に移動し、語順の変化によって焦点化

保安語(35b)でも、モンゴル語(35e)でも、目的語が文頭に置かれ語順によって焦点を表すとしても、対格接尾辞を付けるが、保安語の(35)cと東郷語の(35)dにおいて[ʃi]の使用により、ゼロ格目的語が文頭に置くことが可能である。

したがって保安語と東郷語の文構造には、有標の語順について保安語またはモンゴル語と異なる特徴が見られる。

8. まとめと今後の課題

本発表の内容は以下のようにまとめられる：

1. 保安語と東郷語の[ʃi]は、漢語の「是」を借用したものであるが、全般的に借用したことはない。
東郷語の[ʃi]は名詞または形動詞のみの前後に現れる。
保安語の[ʃi]は名詞句の前、名詞/形動詞の後ろに現れる。
文における機能から見ると、保安語の[ʃi]の前の要素は主題であると考えられる。
2. 保安語と東郷語の文構造に、[ʃi]の使用によってゼロ格目的語が文頭に置かれることができ、本来する保安語またはモンゴル語と異なる特徴が見られ、漢語の「是」の借用により、保安語と東郷語に言語変化が生じていると考えられる。

発表者が現地調査を通じて収集した保安語の口語資料では、[ɕi]が仮定副動詞に付く（佐藤2001により）ことが現れなかったのは、インフォーマントの個人差または世代差であると推測される。

今回の調査は、大塚方言を対象にしたが、方言差による保安語の[ɕi]により詳細な研究が望まれる。

本発表には、保安語のほかの主題標識（-gə）と見られるものを扱っていないが、それとの対照研究を今後の課題としたい。

略号一覧

1:一人称 2:二人称 3:三人称 AUX:助動詞 ABL:奪格 ACC:対格
CAUS:使役 CON:仮定 COP:コピュラ CVB:副動詞 DAT:与位格
EXCL:除外形 GEN:属格 INCL:包括形 IND:直接法 INS:造格 INTJ:
間投詞 IMP:命令法 NEG:否定 NMLZ:名詞化 PL:複数 PRS:現在
PST:過去 PTCT:分詞 PTL:助詞 (介詞) SG:単数 TOP:主題 PROG:
進行 PRF:完了

参考文献

- 布和・刘照雄（1982）『保安语简志』北京：民族出版社
- 布和（1986）『东乡语和蒙古语』呼和浩特：内蒙古人民出版社
- 布和（1987）『东乡语话语材料』呼和浩特：内蒙古人民出版社
- 陈乃雄（1986）『保安语和蒙古语』呼和浩特：内蒙古人民出版社
- 陈乃雄（1990）「保安语的演变轨迹」『民族语文』3. pp.16-25
- 劉月华・潘文娛・故韦华『实用现代汉语语法』北京：商务印书馆
- 吕叔湘（1999）『现代汉语八百词』北京：商务印书馆
- 吕叔湘(2014)『中国文法要略』北京：商务印书馆
- 王力(2014)『中国现代语法』北京：中华书局
- 张和友（2012）『“是”字结构的句法语义研究』北京：北京大学出版社
- 赵淑华（1979）「关于“是……的”句」『语言教学与研究』1. pp.57-66
- 朱德熙（1978）「“的”字结构和判断句」『朱德熙文集〈第2卷〉』北京：商务印书馆
- 亀井孝・千野栄一・河野六郎（1996）『言語学大辞典〈第6卷〉術語編』東京：三省堂
- 佐藤暢治（2000）「保安語の変容と社会変化-問題点と今後の課題」『東アジア言語研究』4. pp.61-70
- 佐藤暢治（2011）『保安語積石山方言のテキスト』東京：白帝社
- 斎藤純男・田口善久・西村義樹（2017）『明解言語学辞典』東京：三省堂
- 田中春美・樋口時弘・家村睦夫・五十嵐康男・倉又浩一・中村完・下宮忠雄（2007）『言語学
のすすめ』東京：大修館書店

ありがとうございました